ビ ワ 生 育 情 報

第　７　報
千葉県農林水産部
令和５年４月号

４月１日時点での幼果の発育は３品種とも平年より早く、収穫期は平年より早いと予想されます。

果実の発育

４月１日現在のビワの果径を表１に示した。横径は「楠」が 1.75cm、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 1.93cm、1.85cm であった。平年と比較すると「楠」は 109%、「大房」は 122%、「田中」は 117%であった。

縦径は「楠」が 2.19cm、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 2.28cm、2.36cm であった。平年と比較すると「楠」は 109%で、「大房」は 116%、「田中」は 118%であった。

果形指数は「楠」が 0.80、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 0.84、0.78 であった。本年の果形指数は「大房」は平年よりやや高く、「楠」、「田中」は平年並みである。

果実の発育は、３品種とも暖地園芸研究所及び現地圃場(青木、南無谷)で早く推移している。今後の気象にも影響されるが、収穫期は平年より早いと予想される（各品種の平年値は前年の７月号を参照)。

表１　果実の発育（4月1日の果径）

品種	調査地点	横径（cm）			縦径（cm）			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	1.75	1.61	1.65	2.19	2.01	2.09	0.80	0.80	0.79
大房	青　木	1.90	1.59	1.32	2.31	1.98	1.63	0.82	0.80	0.81
	南無谷	2.04	1.65	1.40	2.40	2.05	1.78	0.85	0.80	0.78
	暖地園研	1.84	1.53	1.48	2.14	1.94	1.93	0.86	0.79	0.77
	平　均	1.93	1.58	1.40	2.28	1.97	1.78	0.84	0.80	0.79
田中	青　木	1.76	1.59	1.29	2.26	1.99	1.73	0.78	0.79	0.74
	南無谷	1.91	1.60	1.59	2.44	2.07	1.98	0.78	0.77	0.80
	暖地園研	1.87	1.56	1.54	2.37	1.99	1.98	0.79	0.78	0.78
	平　均	1.85	1.58	1.47	2.36	2.00	1.90	0.78	0.79	0.77

果形指数：横径／縦径
平年：平成５年～令和４年の 30 年間の平均
南無谷は平成 10 年～令和４年の 25 年間の平均

令和5年3月の気象

令和５年３月の半旬別の気象を表２に示した。平均気温は全半旬で平年より高かった。月平均気温は 12.9℃で、平年より 3.3℃高く、前年より 1.7℃高かった。

最低極温は全ての半旬で 0℃以上であり、氷点下日数は 0 日であった。

降水量は第４、第５半旬は平年より多く、第６半旬は平年並み、第１～第３半旬は平年より少なかった。月合計は 148mm で平年の 85%、前年の 190%であった。

日照時間は第２から第４旬は平年より多く、他は平年より少なかった。月合計は 170 時間で平年の 102%、前年の 95%であった。

表2　令和5年3月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温（℃）			氷点下日数（日）			最低極温（℃）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	10.5	8.0	10.2	0	0.6	0	2.1	0.9	2.8
2	13.2	8.9	7.6	0	0.5	0	5.6	1.0	0.7
3	12.3	8.9	14.7	0	0.4	0	5.3	0.8	5.8
4	12.5	10.4	11.5	0	0.1	0	4.8	2.5	4.2
5	16.0	10.0	7.9	0	0.1	0	10.4	2.8	0.3
6	13.0	11.1	14.7	0	0.1	0	6.9	2.8	9.0
平均/計/最小値	12.9	9.6	11.2	0	1.8	0	2.1	-0.7	0.3

半旬	降水量（mm）			日照時間（hr）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	11	31	5	23	26	35
2	1	30	10	47	27	35
3	7	20	0	34	28	43
4	39.5	22	21	32	27	22
5	56.5	37	21	15	27	30
6	33	35	22	18	33	16
計	148	174	78	170	167	180

平　　年：1991～2020 年の 30 年間の平均
最低極温：各半旬あるいは３月中に記録した最低気温
なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

5月の作業

収穫前にモノレールや索道、道路を整備するとともに園内の草を払っておき、収穫道具や出荷用資材を揃えておく。１樹の収穫は２～３回に分けて収穫適期の果実を収穫するが、特に１回目の収穫では未熟果が混入しないように果皮色をよく確認して収穫する。

果樹カメムシ類の予想発生量はやや少ないとされている（令和４年度病害虫発生予報第 11 号（令和５年３月 15 日））が、ビワ園への飛来に注意し、薬剤防除に取り組めるように準備する。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

台木の養成

ビワの苗木は、生産しているところが少ないので、自家生産に取り組む。収穫した果実から種子を採り、種まきして、台木用の実生苗を確保しておく。「楠」の実生は、は種後の生長が早く、根張りが良いので、台木に適している。接ぎ木を行う場合は２、３年間養成して、幹が直径 1.5cm 程度の太さになった台木を用いる。実生苗は、降雨によってごま色斑点病が伝搬し枯死することがあるので、雨よけ施設で管理する。

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html